未来へ～今こそ交流の架け橋を繋ぐ時～

標津町立川北中学校
２年　大垣　結愛

「近くて遠い島、北方領土」

北海道の東の端、標津町に住む私にとって、何度も耳にしてきた言葉。

野付半島から国後島までの距離はわずか十六キロメートル。晴れた日には、島の姿が肉眼ではっきりと見える。しかし、現在、島との交流は途絶えたまま。気軽に訪問することも叶わない。私達にとってその名の通り「近くて遠い島」なのだ。

一九四五年からロシアに不法に占拠されている北方領土。あれから約七十八年。返還されぬまま月日は流れ、今もなお、多くの人々が島への思いを抱えたまま暮らしている。年を追うごとに高齢化して行く元島民の思い、北方領土周辺の海で危険と隣り合わせに漁業を営む漁師の思い、小さい頃から島を眺めながら育ってきた私たち地域住民の思い。たくさんの人々が、島の未来への期待と北方領土の早期返還を日々願いながら暮らしている。

三十一年前から始まった交流の架け橋「ビザなし交流」。北方領土で暮らすロシア人と私達日本人との心の交流の場。この交流により、元島民は再び自分の生まれた故郷の地を訪れ、祖先への祈りも捧げることができるようになった。そしてまた、たくさんのロシア人が日本を訪れ、日本の文化や風習に親しみ、互いに相互理解を深めてきた。私の母や叔父も島を訪れた経験がある。私の祖母も、交流会に参加し、数多くのホームステイを受け入れ、交流事業に積極的に関わってきた。そして、直接ロシア人と会話し、お互いの考えやお互いの気持ちを通わせることで、北方領土に暮らすロシア人との絆を深めてきた。私も小さい頃から交流会に参加してヨサコイを披露し、一緒に縁日や会食で交流を続けることで、北方領土に関心をもち、そこに住む人々と心の交流を続けてきた。祖母と母、弟と家族で参加する交流会は、私にとって、北方領土返還に繋がる大切な機会でもあった。

しかし、今、北方領土に関わる全ての活動が止まっている。コロナウイルスの蔓延、ロシア政府の情勢、日本としての立場。ビザなし交流や北方墓参も中止が重なり、漁業関係については多大な影響が出ている。そんな中、ある日突然、貝殻島にある灯台が白く塗り替えられたのは最も衝撃的な出来事であった。元島民にとって、どんなに悲しい思いだろう。現在、元島民だった人達は皆、高齢化している。島の問題を解決するには今すぐにでも解決に向けて一歩前に進む姿勢が必要である。行政の立場として、元島民の立場として、そしてこれからの未来を生きる私達の立場として。私達が今できることは何なのだろうかと、一人一人が考え行動する必要があるのだ。このまま島との交流を途絶えさせてはいけない。だからこそ、再び交流の架け橋を復活させ、北方領土返還への早期解決の道を繋いでいくことが今、求められているのだと私は考える。

北方領土問題とこれからの日本

根室市立光洋中学校
１年　立野　恋

一九四五年、ロシアにより北方領土が占領されました。

なぜロシアは、北方領土を占領し続けるのでしょうか。

北方領土は、もともと北方四島とその北側にある千島列島にアイヌ民族の人たちが住んでいました。そこにラッコの毛皮などを求め、南から日本人、北からロシア人が入ってきて、争いが生じます。そのため、日本とロシアは江戸時代の一八五五年に択捉島とその北側のウルップ島との間に国境線を引くことを決めました。

ところが、第二次世界大戦末期の一九四五年、アメリカなどと一緒に連合国の仲間だったソ連が、お互い攻撃しないという約束を破り、日本に攻め込みました。日本が負けを認めた後にも、ソ連は攻め続け、四島を占領しました。

これが北方領土問題の始まりです。

ロシアは、第二次世界大戦の結果による、「合法的」な編入だと主張し、現在でも変わらず北方四島を占領し続けています。ロシアにとって北方四島は戦略上、極めて重要な位置にあります。ロシアはユーラシア大陸にまたがる広大な国土を持っていますが、北極面に面している北側は冬の間、海が凍結して船の航行ができません。そこでロシアは歴史的に不凍港を重視してきました。西のヨーロッパはバルト海、ウクライナと接する南側は黒海、東は北方四島です。北方四島はロシアにとって、太平洋に出るための重要拠点なのです。

ロシアが北方領土を占領し続ける理由をまとめると、「第二次世界大戦での結果はロシアが勝ったから」「北方四島をロシアの領土にすることで争いや、太平洋に出るために重要だから」ということです。

しかし、ロシアにどのような理由があっても、北方領土は日本の領土であり、他国の領土ではありません。

日本は、北方四島が占領された直後から、「北方領土返還運動」を始めました。北方領土問題を政府広報の重要テーマとして取り上げ、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて、広報活動を行うなど様々な取り組みをしています。返還運動以外にも日本政府は、北方領土問題を解決してロシアと平和条約を締結することにより、日ロ間に真の友好条約を確立するという方針のもと、粘り強くロシア政府との交渉も行っているようです。

今でも日本は、北方領土返還運動を続けていますが、日本人の中には北方領土返還に関して、あまり興味がない人や北方領土問題について知らない人が多いと思います。

そして、これから日本は、ロシアに対して返還運動や交渉をするだけでなく、国民にも北方領土問題について理解してもらえるような取り組みをすることが必要だと思います。